



新たな発見が生まれる

郷土の歴史を学ぶ

伝統文化を継承する

気軽に自由に過ごす

まち博へよう

飛驒高山
まちの博物館

城下町高山の新しい交流拠点「飛驒高山まちの博物館」

その収蔵品を紐解くと、現在に生きるわたしたちと過去の先人たちとの、刻を超えた出会いが待っています。

広報たかやまでは、収蔵品とそれに関わるエピソードを紹介していきます。



櫛文峰作「猫図」(部分)

人の魅力、まちの魅力、高山の魅力

第七章 美術

高山には美術の伝統があります。

江戸時代には南画が全盛を迎えます。南画とは中国絵画の影響を強く受けたもので、美しさもさることながら、精神性の高さや画家の教養を重んじるものです。高山の豪商や僧侶、地役人など多くが南画に親しみ、その伝統は明治以後も土田雪鴻や杉下守中、富田令禾などに受け継がれました。

江戸時代の後半からは京都で円山・四条派が人気となり、高山からも多くの画家が京都へ出て絵を学びます。幕末の垣内右隣、雲隣親子、明治には玉舎春輝、櫛文峰などが京都画壇の門を叩きます。文峰の「猫図」(写真)は岩の上

に寝転ぶ猫を描いたもので、細密な描写が目を引きます。

大正時代、自由画教育運動の空気を吸った武田由平らは飛驒版画の流れを起こし、守洞春や岩島周一などの版画家を生み出しました。

美術の展示室では、郷土にゆかりのある作家の作品を中心に展示をしています。生の美術作品にふれることは自らの感性を高め、創造のエネルギーと置いてみてください。

問合せ先

まちの博物館
☎32-1205

企画展のごあんない

木を活かす～新蔵資料を中心に～
期間 1月31日(火)まで

飛驒の歴史・文化に深くかかわる木の活用について、近年収集した資料を中心に展示します。

【主な展示資料】宮田北洲作「蒔絵硯箱」ほか

利用のご案内

- ◆開館時間 展示室 午前9時～午後7時／
研修室 午前9時～午後9時／庭園 午前7時～午後9時
 - ◆休館日 無休(臨時休館有) ※お正月も開館しています
 - ◆観覧料 無料
 - ◆駐車場 空町駐車場(市民の方は2時間無料です※証明書要)
- 〒506-0844 高山市上一之町75 ☎32-1205 FAX35-1970
(まちなみバス「博物館前」下車すぐ)

市長だより④

不易と流行

そして信頼

高山市長 國島芳明

新年号に際し、私の基本姿勢の一つ「不易と流行」について紹介したいと思います。

不易とは時代の新古に関わらず不変であること、流行とはその時々時代の流れで変わりゆくもののことです。俳人松尾芭蕉が提起した用語で、彼は俳句という新しいジャンルを開拓する中で、両者を対立するものとしてとらえず、本質的には同一のものと考えていたそうです。新しい高山を創る私の想いも同様です。不易と流行の必要性を互いに認め大切にしながら、日々のまちづくりの臨むことが重要であると考えます。

目指すまちづくり像にとってもう一つ欠かせない理念は「信頼」だと思えます。まちづくりにとって欠かせない地域の元気の源は人ですが、人は一人では生きていきません。相手を信じて、自分を信じてもらうこと、そして相手を頼ることの積み重ねです。

―座して死を待つより出でて活路を求めん―
新しいまちづくりに向けて、積極的なチャレンジ精神を常に抱き、明るい高山市の将来の道を広げていくために、不易と流行、そして信頼の気持ちで大事にしながら今年も24時間365日まい進しますので、どうぞ本年もよろしくお願ひ申し上げます。